



昔上東門院侍女ありし  
 其御心多し此系式部ハ  
 皇ノ御心ノ筆作ノ妙ト得  
 石山寺ニありて傳氏物持  
 行給王其喜天台四教義  
 乃非有非空と信もあは  
 有威故と勸善御心ハ  
 道を立り日本紀の局と  
 ちよをれをも活筆乃  
 了屋よりい給六室所  
 將軍ヲ雅媛一給い之後  
 下を書院の矩則と  
 一給いしと子葉給ト  
 思ふに柙管と名をい  
 源氏乃信と世に冠し  
 侍りぬ実と紫の上を又  
 信也と月信と名を  
 娘士其根之高と名をよ  
 紫と名をよと名をよと





娘士農工商と云ふ事と  
 業一もあらずと云ふ事と  
 活華の上と物理と云ふ事と  
 天地の陰陽自存と云ふ事と  
 知覚と云ふ事と  
 法と云ふ事と

安政辰の仲秋

源氏流初傳目錄

- 一 太極無極之傳
- 一 天地兩儀之傳
- 一 陰陽生四象圖
- 一 四象生八卦圖
- 一 四象分老少辨
- 一 方圓位三才傳
- 一 五行出生之傳
- 一 三才割陰陽辨
- 一 四倍八數之義解
- 一 胎卵濕化之辨
- 一 五行則五方辨
- 一 五行配當之辨

同圖

同辨

同圖

陰圖陽圖

并後天割



- 一 五行則五方辨
- 一 五行配當之辨
- 一 天地陰陽之心得 并活花圖
- 一 真行草之心得 并活花圖
- 一 親子在處心得 并活花圖
- 一 自他在處心得 并活花圖
- 一 親疎在處心得 并活花圖
- 一 遠近在處心得 并活花圖
- 一 五行配五方辨 并活花圖
- 一 五行活花之辨
- 一 五常活花心得 并活花圖
- 一 過現未之心得 并活花圖
- 一 名處虛實之辨 同圖
- 一 六合合體之心得 同圖
- 一 真行草在處心得
- 一 陰陽蘊奧之口授

以上

太極無極之傳

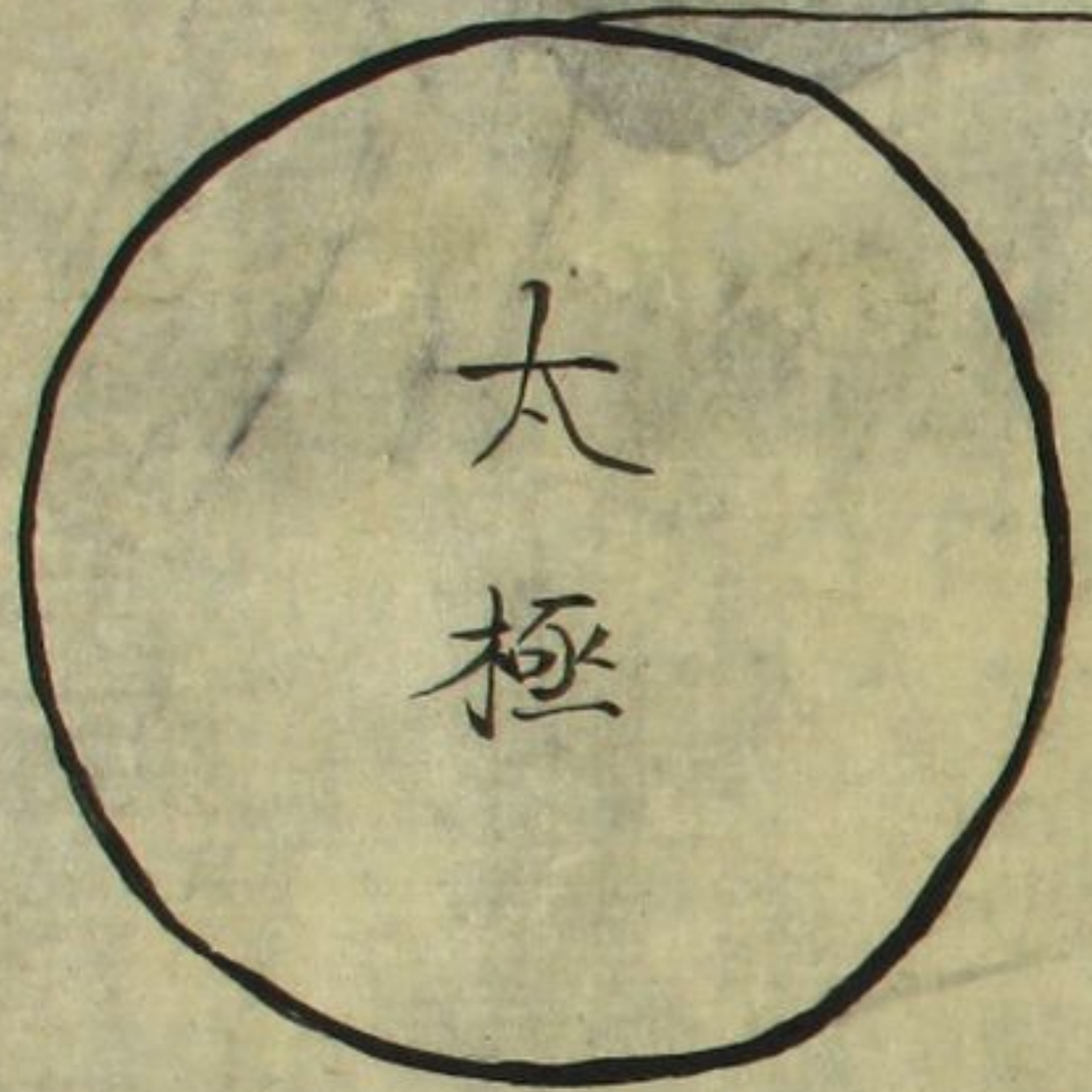
易曰太極無極太極生兩儀兩儀生四象四象生八卦と云々萬物以理よも事無然然に活花不此理を用る夏我家の秘傳よ一之必先初學の輩よ是を附屬して太極ハ無極也とハ混渾未分の時を云ふ形如鶏子と云々を合めると日本紀ふらるが如く近く是をよせハ有無の二つなり先生花も無く活花笑もなき主人の心清淨して敬禮をよとせらるる則容来るを



清浄にして敬禮を以てするより則ち容來るを  
 わんごの糸を帯除く掛物床訪等々こと此を付  
 花と活んと思ふ所無極より太極を生る所也  
 さく床又花筈を置るる則ち太極の定所也  
 是より活花は陰陽三才五行等の意味を  
 配當しるるがれ此傳を以太極無極の令  
 本原を辨し無極の歸真及璞淨清真正  
 きることを悟るる

天地兩儀之傳

天地兩儀と乾坤陰陽乃名也兩儀の本を  
 尋ねれば則ち大極也等法家不是を天元のと  
 系を其大極は陰陽一圓丸の如く  
 環の端無り物也さく清るも此は天と成獨  
 者は地と成天先成而地後定則天地の位定そ  
 天を陽と地を陰と是活華の形象と定  
 る用此理を自然の志しむる所也



渾沌未分時云



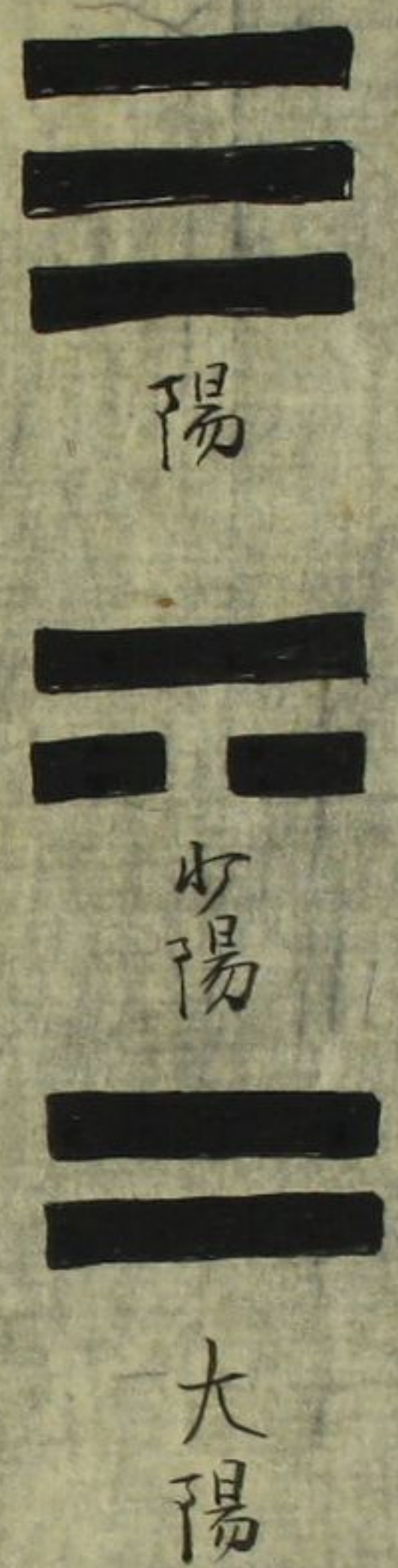
陽ハ則ち天体  
ニシテ圓ナリ



陰ハ則ち地體  
ニシテ方ナリ



陰陽生四象之圖



又小大對一少老對一故老陰老陽云

四象生八卦辨陰陽生六子圖



四象生八卦辨

易曰四象生八卦八卦生十六十六生三十三三十一生六十四何然也其本八陰陽と父母と一陰陽生六子也圖を見て知る一陽坤卦の下芽と震の長男を生一陰乾卦の下芽と巽の

陰  
陰ハ則地體ニシテ方ナリ



生六十四とあり然れども其本ハ陰陽と父母と  
陰陽生六子也圖を見て知るべし一陽坤卦の下  
芽と震の長男を生し一陰乾卦の下は芽と巽の  
長女を生し一陰乾の中は文ニ中女ニを生し一陽  
坤の中は文ニ中男ニを生し一陽坤の上は  
偶と艮の少男を生し一陰乾の上は偶と兌の妻  
を生する也是陰陽生六子所以也蓋六子有と  
二ども各形情異り乾ハ健也兌ハ悦ニ也離  
附也離ニ也巽ニ也入也坎ハ岫ニ也艮ハ止也  
坤ハ順也と心得べし○兩儀より四生ハ卦  
十六 三十二 六十四卦と成就するハ易の順例也  
四象八卦を生する二ども實ハ陰陽六子を生  
生る也と心得べし一從深ニ意味ハ切紙傳ニ  
ふを見ろべし

### 四象分老少辨

陰陽相交て少陰少陽を以て万物群ニと云  
而後老陰老陽と名物皆若ニ老ニ至ニ  
也然れハ草木花實老若盛衰榮枯始終  
兼ニハニ天地萬物皆然と一陽ニ一陰ニ交ニ  
少陰ニ一陽ニ交ニ少陽ニ一陰ニ交ニ  
皆陰ニ老陰ニ皆陽ニ老陽ニ活ニ華ニ  
於ニ其ニ名ニ驗ニ

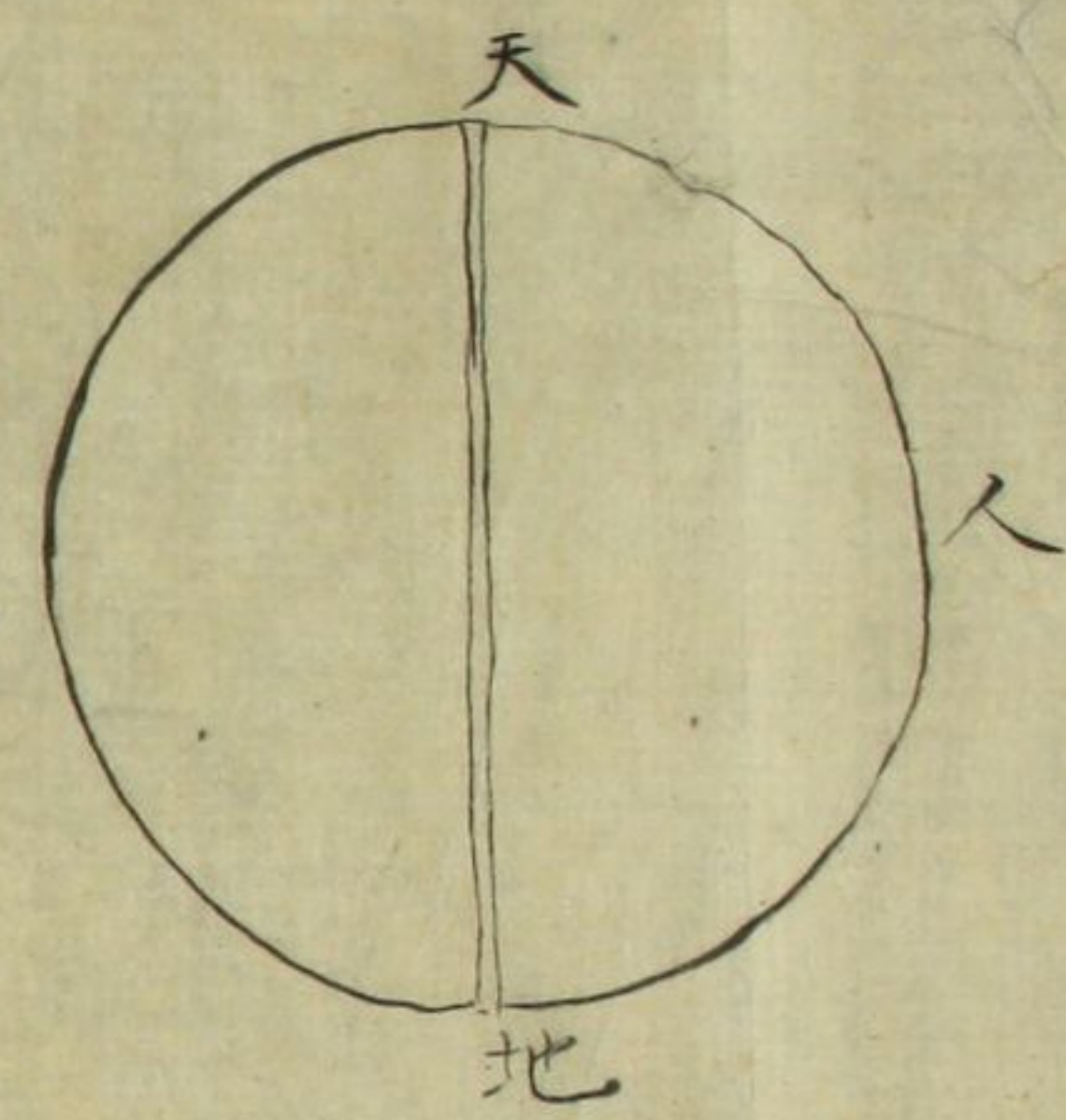
### 方圓位三才傳

世は年月と云

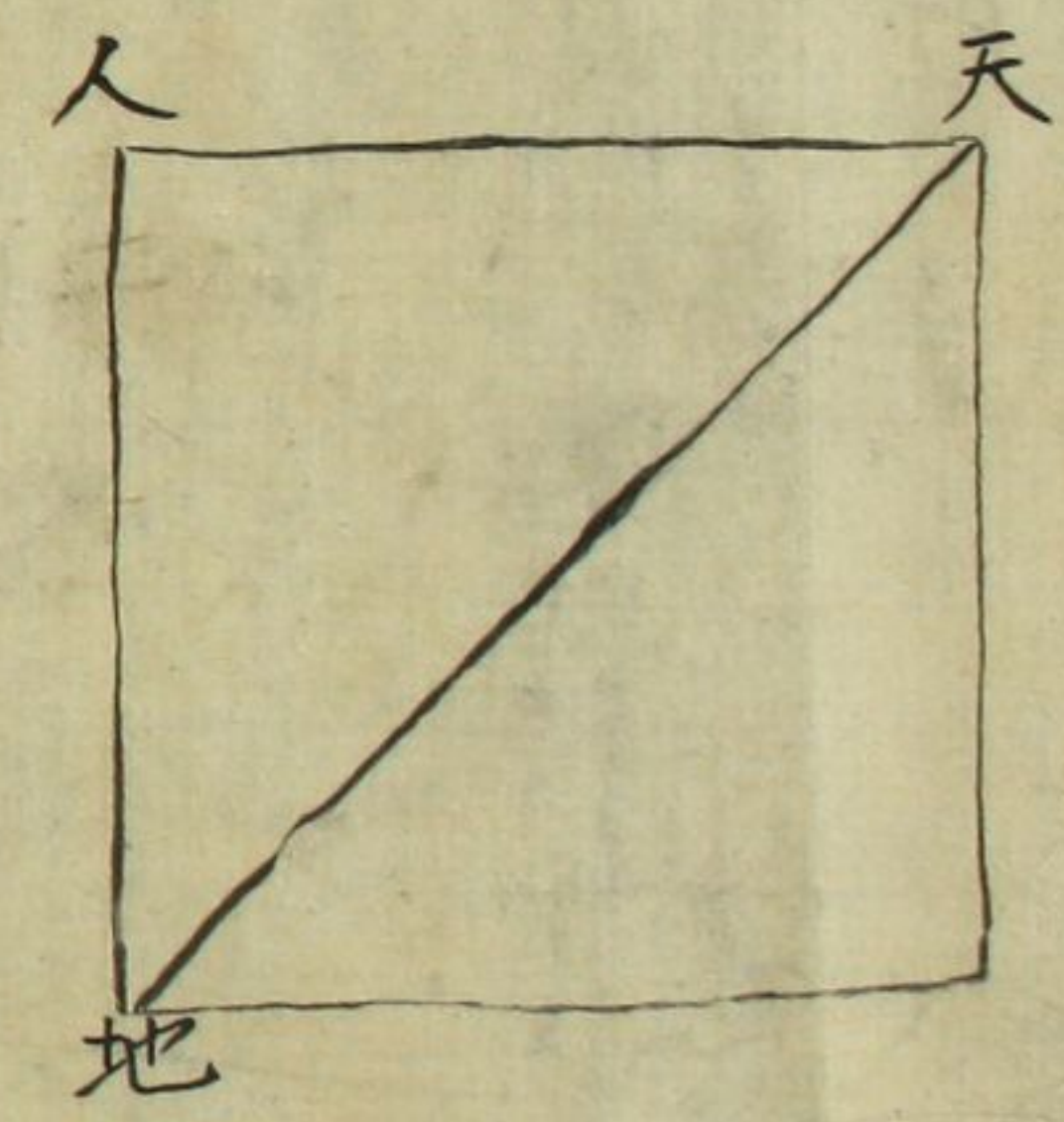


方圓位三才傳

世又年月と云



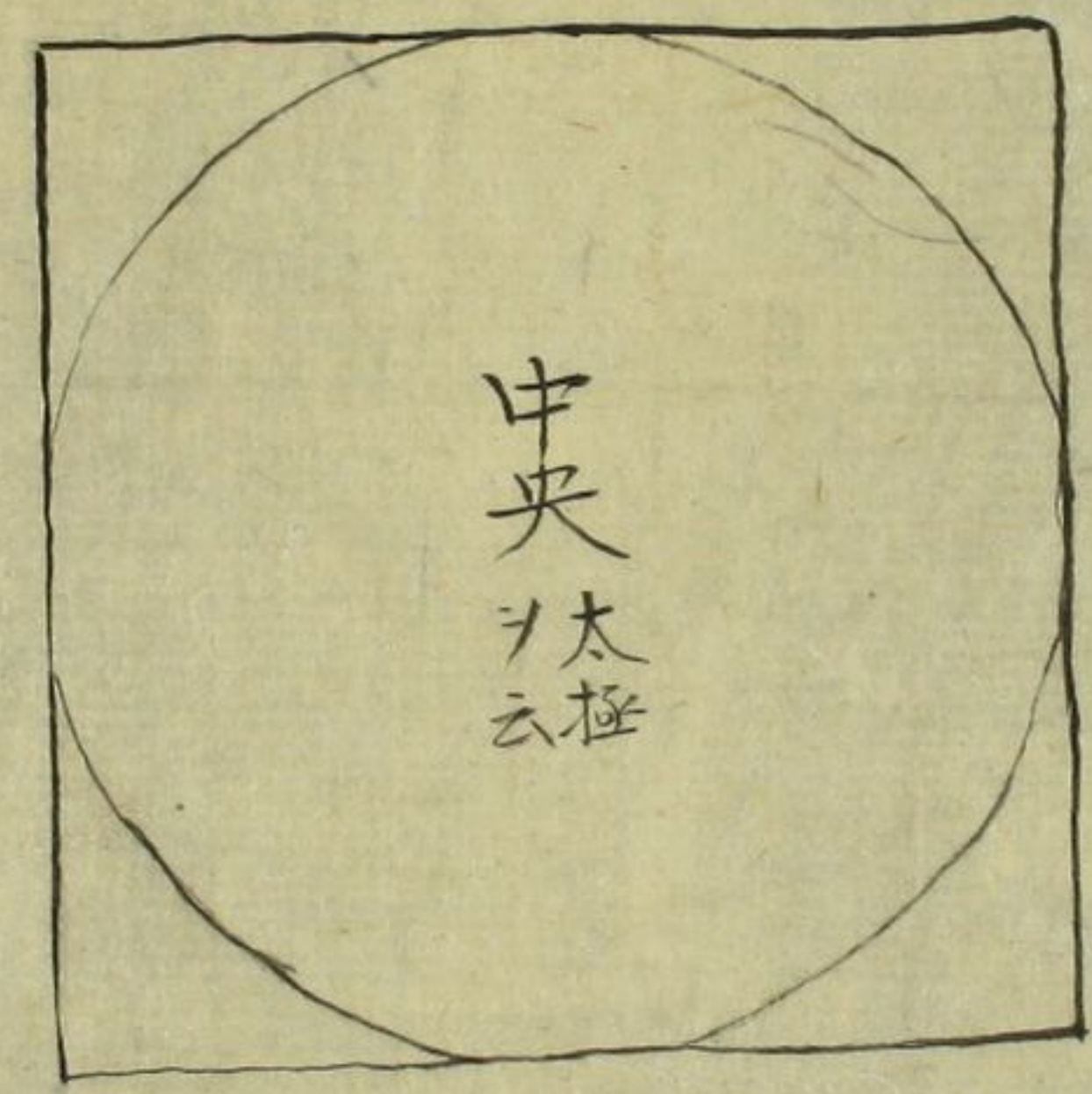
圓圖の真中より寸を  
取れハ三分一と成則三才  
の顯る本也



方圖を「字」割てハ  
則三才顯る本と成る

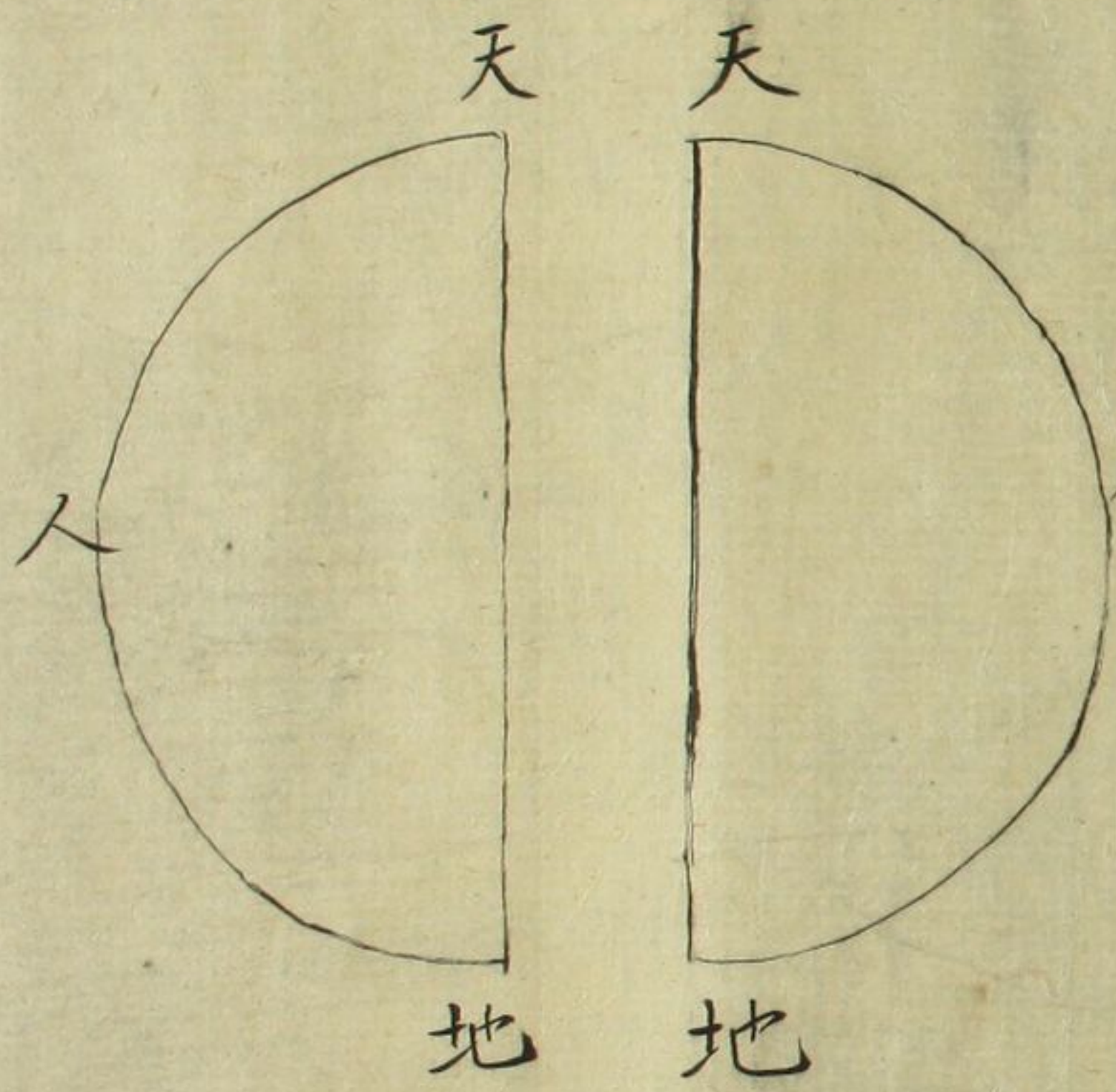
五行出所之傳

氣學



思陰

三才割陰陽辨

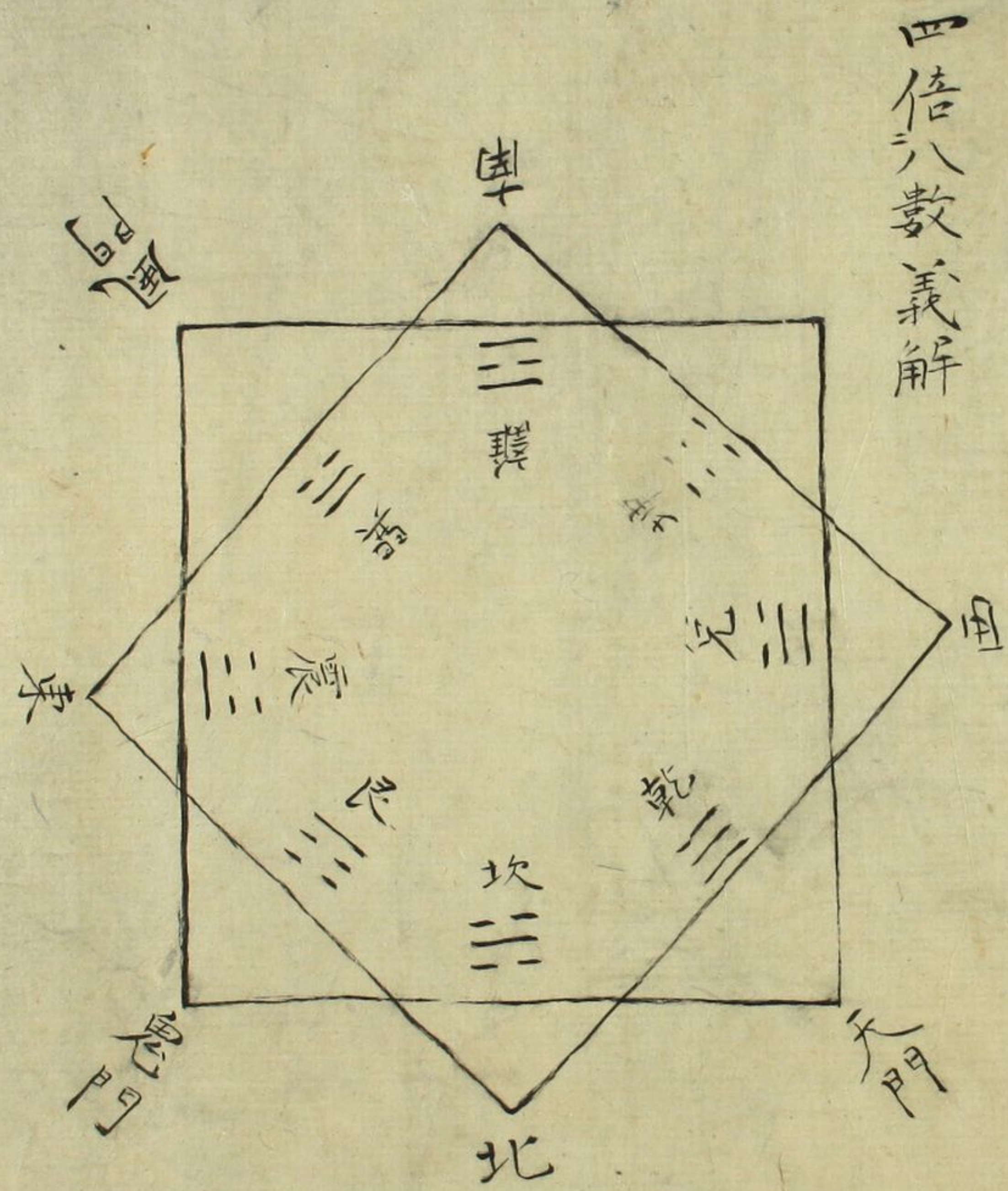


陽中陽

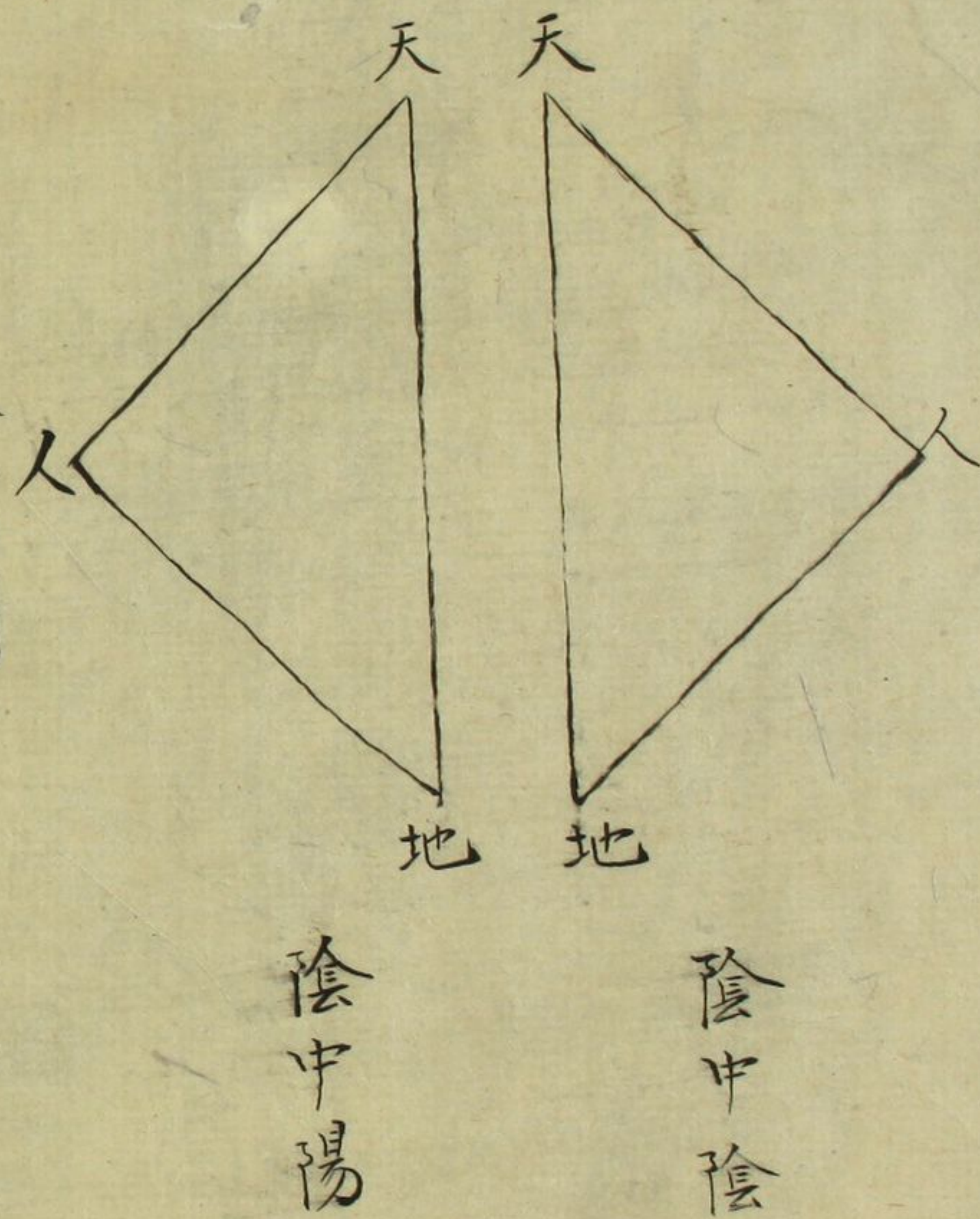
陽中陰



胎印濕化之辨  
 方廣圓覺經曰胎卵濕化名四生胎生と云  
 父母の恵を受く胎内よやど王生を云ふ人ら則  
 萬物の靈とは是之を云ふ也卵ハ禽虫卵生



右三才陰陽圖





父母の恵を受く胎内やど生ると云ふ人ら則  
 萬物の靈とは是之といふ也卵ハ禽ハ龍虫卵生ハ  
 一之胎をたまごを云濕を草木魚貝の濕氣よ  
 生ると云化ハ万物變化ありと云ハ雀入海  
 成蛤野嵐化成鷄が如し是を化生と云也と云く  
 四生の中に胎生をう貴まハ好し故に卵濕化の  
 物ハ胎生を敬ひ耳目を悦ぶしむ也と云く一む  
 禽獸虫魚の類或は諸鳥或は兎嵐或ハ松虫  
 鈴虫或は緋鯉金魚等也又草木華葉五色乃蕙  
 杏皆人間を觀喜せしむ也然花ハ活花の人  
 此理を辨胎生の人ハ神佛の護念ありハ天地  
 自然に卵濕化乃養ひありと心得る事ナリ就中  
 以花神佛を供養一賓客の敬禮愛慕を以  
 事妙用ありと知るべし

五行則五方辨

夫五行ハ木火土金水是也五方ハ東南  
 夫西北是也東方ハ則震の卦と云く木屬を  
 南方ハ則離の卦と云く火屬を中央ハ坤卦と  
 云く土屬を西方ハ則兌の卦と云く金屬を  
 北方ハ則坎の卦と云く水屬を此理を以五行  
 とハ震離坤兌坎より割く五方ハ則と云  
 くとハ四季ハ土用ありと云

五行配當之辨

木	火	土	金	水
東	南	中央	西	北



二本活花親子之事

天人地又同

杜若



真行草之事

好文木



天地陰陽心得

此理之貫通——心得——

目	肝	青	東	木
舌	心	赤	南	火
口	脾	黃	央	土
鼻	肺	白	西	金
耳	腎	黑	北	水



遠近活花心得



親疎活花心得

蘭天竹  
金銀花

莞  
ツモモ  
オモダカ

自他活花心得之事



唐花王



二本活花親子之事



遠近活花心得

連翹



椿

水仙

五行五方活花之事



五行花之辨

向を南陽離火と盛なるを活座一午前と  
北陰坎水と静用かゝるを活我九午の古と  
東陽震木と繁茂を活我右午の方を西陰兌  
金沙殺伐の氣を活中央八土用の寛和を活極  
其一と五行の心得たの如く就中中央と信  
位と一と隔意なく見切なきと活る事と  
此理より出ると知る



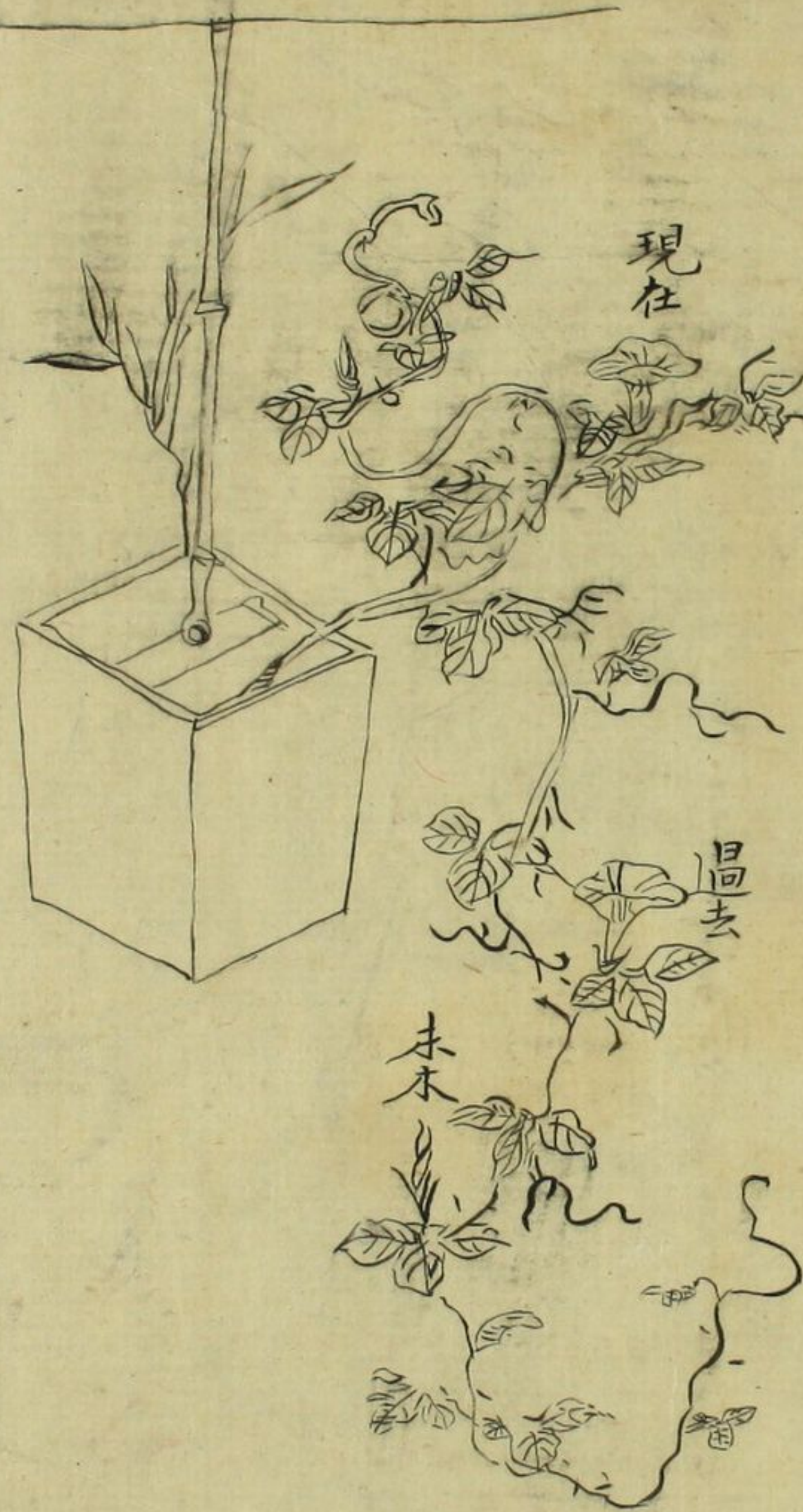
位... 見... 活...  
 此理より出ると知る

五常活萃心得

蓮

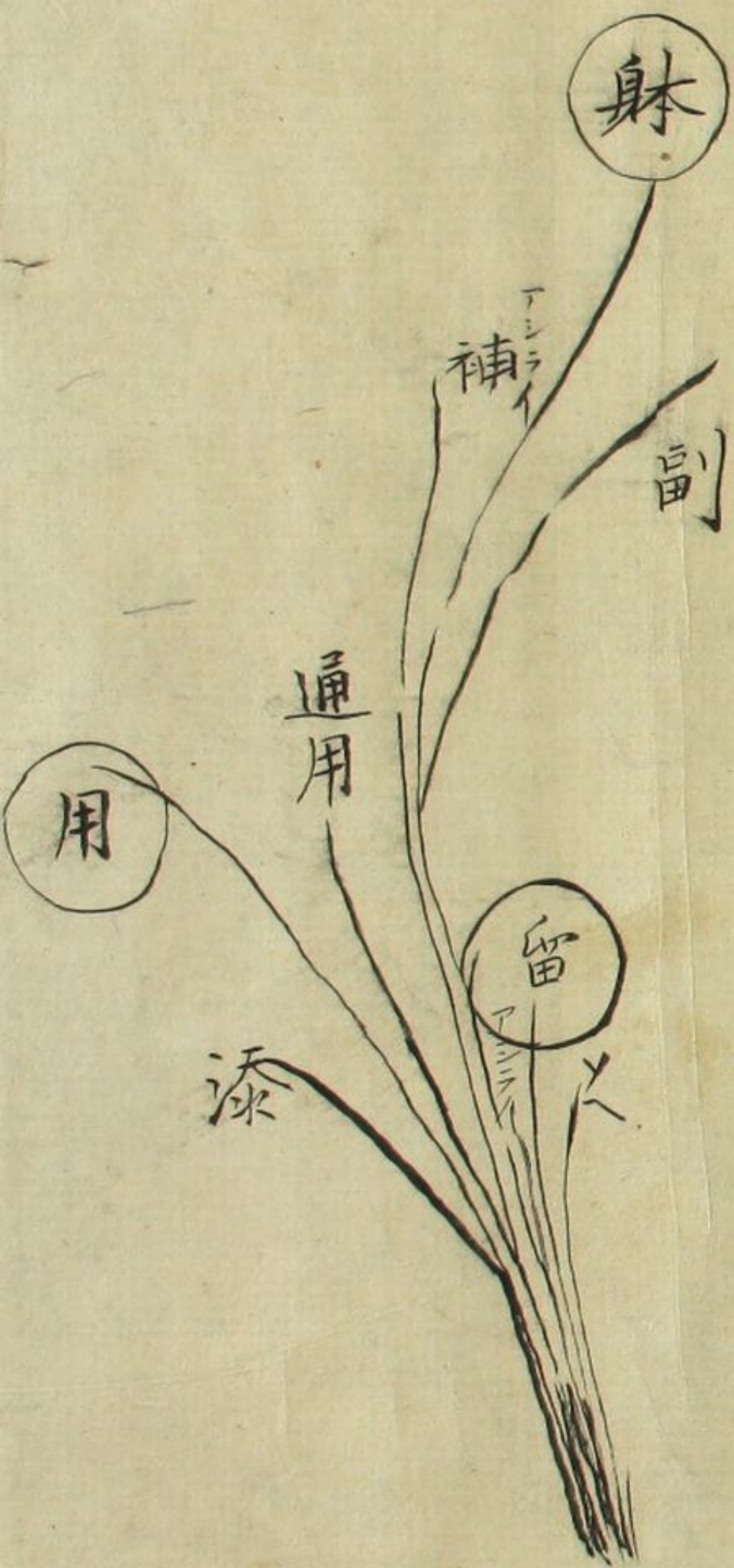


過現未活萃心得



牽牛花

名處心得之夏



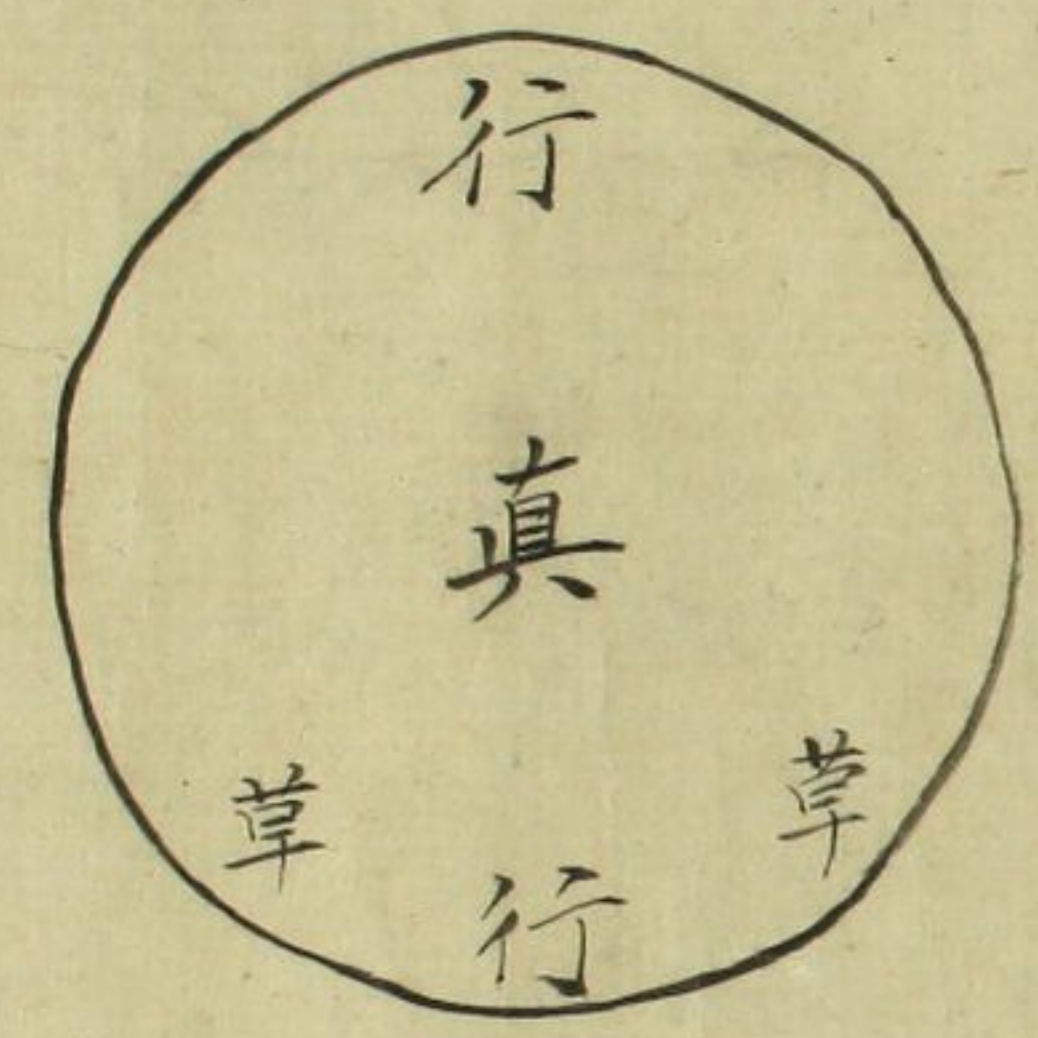


六合合躰心得



陰陽蘊奧之辨

并真行草生場所 口傳



花生の真中女活を真の花向ふ生又前生を  
 行と云ふ兩脇は活を草と云ふ蓋座鋪勝予よ  
 より主位容位の隔あり一明り先を上と心得其  
 容より真行草生場所と云ふも貴人高位  
 容ハ稀るれば差別專一の壹格別は敬ひを



より主位客位の隔あり一明り先を上と心得其  
 客より真行草花生場所と一も貴人高儀  
 客ハ稀るれば差別專一の支配別は敬ひを  
 貴人の時ハ昔竹より花生を切表巻此筆白水彦板  
 活場所真又花も真の活方花留昔竹其外  
 是ハ准を一一客より行の場所ハ花生一と  
 初ども時節又々珍花有合の花々其場所ハ  
 活難木ゆゑ等の花々も一活場所草成も  
 花を行ハ活魚一又座輔勝手明り先の摸板  
 より主客並活場所真行草花の真行草  
 活方自在を得る心得也抑陰陽消長之  
 理陰中ハ陽あり陽中ハ陰あり又陰中の陰あり  
 陽中の陽あり實ハ神變自在なるを所為  
 とす又臨機應變といふハ變易といふ是也  
 陰陽虚實第地走曲を合合するハ其蘊奥ハ  
 至也ハ自ら悟る事也此一小冊を撰て初學  
 の輩又教さるると云ふ也

源氏流活華會頭

宗聲齋宗丹識



十徳

早文高位 朝暮風流



十德

早交高位

朝暮風流

萃無他念

席上常香

不時佛緣

知草水名

諸惡離別

生魂養生

不語成友

眾人愛敬

八戒

異衣不沽

不誇他流

不乞庭木

不撰他萃

活後不立

勿生悖心

不盜花形

不敬入席

終

源氏流活萃宗近法橋

松翁齋

初代

千葉龍卜

二代

千葉龍子

三代

松壽齋白露



不語成友 衆人愛敬

八戒

異衣不沽 不誇他流

不乞庭木 不撰他華

活後不立 勿生憍心

不塗花形 不敬人席

終

初代 源氏流活華宗延法橋  
松翁齋 千葉龍卜

二代 千葉龍子

三代 松壽齋白露

四代 松聲齋宗丹



